

「物語」を利用した

ソーシャルワーク教育

社会福祉教育や実践において、抽象的な理屈だけでは説明しきれない技術や理論をどのように伝え共有することができるでしょうか。本研究会では、「童話」や「身体感覚」を用いた教育の試みを演習形式で体験しながら、ソーシャルワーク教育の方法について、また教育において「物語」を用いることの可能性について学び合います。

講師：小山聡子 先生

(日本女子大学人間社会学部社会福祉学科教授／同志社大学客員研究員)

● **8月7日(木) 13:30～15:30**

「きつねのおきやくさま」にみる援助論
—概念理解のための物語利用—

● **8月8日(金) 10:00～12:30**

非言語メッセージのはらむ物語
—ドラマケーションのおもしろさ—

(8日は、動きやすい服装と靴(スニーカー等かかとのないもの)でご参加ください)

**会場：同志社大学新町キャンパス
溪水館1F会議室**

▼参考文献 <参加される方にはテキストとしてお渡しいたします(無料)>

小山聡子著『援助論教育と物語—対人援助の「仕方」から「され方」へ』生活書院

▼参加対象者

ソーシャルワーク教育(特に援助技術演習など)に携わる人はもちろん、「物語」を活用した演習を体験してみたい人や、「物語」という切り口でのソーシャルワーク論(研究)に関心のある人も、どうぞご参加ください。

★参加を希望される方へ

下記の事務局までメールでお申込みください。(お名前/ご所属/ご連絡先/懇親会への参加希望)

8月8日13時より、講師を囲んでの懇親会を新町キャンパス近くで行いますので、研究会への参加申し込みと一緒に懇親会の参加希望についても合わせてご連絡ください。

演習形式の研究会ですので、20名を超えた場合、後で申し込まれた方は「オブザーバー参加」とさせていただくことがあります。その場合は申込み時点でご連絡いたします。

どちらか1日のみの参加も可能ですが、2日間参加を前提に進めさせていただきます。